

「からまつ」のようにきびしい自然に耐え、どっしりと大地に根をおろし、すくすくと育つ西春別小学校の子ども



別海町立西春別小学校 学校だより

からまつ No.11

令和4年1月31日発行

校長 太田 等

学校の教育目標

知 よく考え表現する子
徳 心豊かで思いやりのある子
体 進んでやりぬたくましい子

自信・優しさ・感謝の3学期に！

太田 等

24日。待望のスケートリンクがオープンしました。保護者の皆様には、夜遅くまで厳寒の中、リンク造りや散水をしていただき、誠に有難うございました。子どもたちは、晴天無風の絶好のコンディションの中、早速スケートを楽しんでおりました。スケート記録会までの期間は短いのですが、その中で今でしかできない冬のスポーツを存分に満喫してもらいたいと思います。

18日。3学期始業式を開催しました。「最高の3学期に！」という願いを込め、私から2つのお話をいたしました。



○ 次の学年にいく準備をしよう

3学期はまとめの学期です。1学期2学期で学習したことは次の学年の基礎になります。「何を学習したか」「何ができるようになったのか」を確かめることがとても大事になってきます。

例えば1年生で学習する「手紙の書き方」について言えば、「手紙の書き方」が「何を学習したのか」という内容になります。そして、「誰に送る」「何を伝える」「自分の名前を最後に書く」ということが「何ができるようになったか」という学習した言葉（知識）になります。

大事なことは、「学習した内容」とその学習の大事な言葉をしっかり覚え、活用できることです。「分数の足し算」という学習であれば、それができるようになるための大事な言葉（知識）は、「通分」「分子をたす」ということになります。学習内容とその内容にある基礎基本の知識という言葉がセットとして頭に浮かべられれば、学習したことがほぼ定着していることになります。

○ 自分をほめる 優しく話す ありがとうの心をもつ

「自分をほめる」と自信がつかます。集中力や頑張ろうとする意欲が増します。（※「自信」「意欲」は、脳内に良いとされる神経伝達物質ドーパミンを増やし、学習能力を更に高める効果があるとされています）反対に「自分は駄目だ」と思えば、それらが減少し自信が失われ、物事に対する意欲は消滅し、結局は自分が損をします。自分が得をするためにどんな小さなことでも自分をしっかりほめていくことが大事です。喜びの粒子が周りに必ず伝わっていきます。

「優しく話す」また、「話そうとするとその心」は、顔の表情にも表れ、相手や周囲にもその優しさが伝わっていきます。安心した空間をつくっていきます。ただし、相手に媚びるということではありません。

「ありがとうの心」というのは、相手に対してもそうですが、全ての物に対しても「ありがとう」の心をもつことが大事です。自分が手にするものに対して「ありがとうの心」をもって接すれば、物を大事にするようになり、物を粗末に扱うことはなくなります。「ありがとうの心」は目には見えない電磁波が発信され、周囲にきちんと伝わっていきます。時には、「○○のせいで」「あの人不ずるい！」「どうせ自分なんて！」「ムリ！ できない！」「こわい」という、怒り、諦め、疑い、妬（ねた）み、嫉（そね）み、恨み、憎しみ、恐れ、不安といったものがあるかもしれません。

しかし、そのような状況になったとしても、自分自身が、自分をほめ、「優しく話し、有難うの心」をもって接していれば、暗く荒んだ心の世界はいつの間にか消滅していきます。「自信・優しさ・感謝」には、全てが守ろうとする働きをします。

この2つを心の片隅におき最高の3学期にしてください。

以上が始業式でお話したことです。本校の教職員の信条は、

- ◆一人一人の子どもの可能性を徹して信じぬく誠実さのある教職員
- ◆全ての子ども達を『ありのままに受け入れる』広い心をもつ教職員
- ◆子どもの成長を第一に考え、どんなことがあっても『励まし、支え続ける』真心のある教職員

この信条を今一度確認し、子ども達が豊かな心をもち主体的に生きる力、考える力を育てることができるよう努めて参ります。今学期も保護者地域の皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。